インタビュー

興和が手掛ける IOL（眼内レンズ）事業

興和株式会社
IOL研究開発本部 IOL開発部 部長 佐藤（さとう） 安浩（やすひろ）

「ズームアップ」欄は、「働く人と仕事」をテーマに商社各社のビジネスや人材をご紹介しています。今回は、国内外で需要が拡大している眼内レンズの開発に携わっている、興和㈱の佐藤安浩氏にお話を伺いました。

1. 入社から現在の仕事に至るまで

当社には1983年に入社いたしました。理科系であったこともあり、光学機器の開発部門に配属となりましたが、その後、医療機器の営業にも携わるようになりました。当社は、医薬品、光学機器等の製造・販売で知られることも多いのですが、眼底検査用のカメラや視野検査のための医療機器の製造・販売を手掛けており、眼科との関わりの多いビジネスを手掛けてきました。

この眼内レンズ（IOL：Intraocular Lens）市場への参入は、当社社長が過去20年にわたり事業化を検討してきたものですが、2006年に大手コンタクトレンズメーカーから事業譲渡を受け眼内レンズ市場に参入したことで、医薬品、眼内レンズ、そして医療機器に至るまで、眼科分野での総合的な展開ができるようになりました。また、眼内レンズの販売に関しては、当社の1,000名を超える医療用医薬品営業担当者を活用することにより、医薬品と共に眼内レンズの拡販も大きく伸ばすことができている状況です。

2. 眼内レンズ市場とビジネス環境

⑴ 白内障治療のための眼内レンズ

眼内レンズは、白内障を患った方への治療に使用されます。白内障は、ほとんどの場合加齢によって現れる疾患で、眼の水晶体が白く濁ることが特徴です。白内障手術では白く濁った水晶体を砕いて取り出した後に人工のレンズである眼内レンズ（IOL）を挿入します。これにより、患者さんは視野視力が回復し、より良い生活を送ることができるようになりました。

また、最近では手術に使用される手術器具や眼内レンズの機能も向上していることで、手術に要する時間も大幅に短縮されており患者さんに対する負担が大きく軽減されています。

⑵ 眼内レンズ市場の拡大

海外の眼内レンズは欧米を中心に大きな市場を形成しており、最近では中国、インドなどのアジア地区でも白内障手術の件数は増加してきています。超高齢社会を迎えた日本国内でも、その数は増加の一途で、現在では年間120万眼の眼内レンズ挿入手術が行われているといわれています。

また、眼内レンズメーカーとしては、国内外のメーカーが数多くありますが、当社を含めた高品質な眼内レンズが現在の主流になってきています。

⑶ 興和の眼内レンズ製品、レンズ挿入器の特徴

当社の眼内レンズ「アバンシィ」はアクリル

系素材からできていますが、生体内で長期間使用される物ですので、アクリル材料自体の安全性や製品に対する高度な品質管理を求められます。当社ではクリーンルーム内での製造工程を経て滅菌されるまでを、独自の品質管理システムを用いて管理しており、安心安全な製品作りを進めています。

当社製品の「アバンシィ」には大きく次の特徴があります。

①手術後の自然な見え方や、まぶしさを軽減するために薄い黄色に着色されており、レンズの種類によらず一定の色の濃さを保っています。

②興和独自の精密加工技術で作られた眼内レンズは、シャープなエッジ形状で術後の合併症などを抑制する効果があります。

③オリジナルのアクリル材料は均一性が高く、レンズの曇りが出にくい材料です。

また、この「アバンシィ」を眼内に挿入するための手術器具として開発された挿入器「メドショット」は、今までにない優れた操作性を有しており、非常に使いやすいとの好評を博しています。さらに「アバンシィ」と「メドショット」を組み合わせた製品である「アバンシィプリセット」は、感染予防の観点からも付加価値の高い製品として医療機関から評価されており、現在では当社の主力製品となっています。

これらの製品は患者さんの手術後の快適な生活（QOL：Quality of Life）を支えています。

3. 今後の事業展開への抱負

最近眼内レンズ市場では、乱視矯正用のトーリックレンズや遠近両用の機能を持ったマルチフォーカルレンズなどのプレミアムレンズが販売されるようになってきました。これらは、少しでも患者さんの手術後の快適な生活を支えるために各メーカーが研究開発を進めてきた成果です。しかしながら、まだまだ機能的な面での課題も多く、より優れた製品開発に向けて各社が努力を行っています。

当社におきましても独自のプレミアムレンズの研究開発に着手しており、近い時期に製品化できる予定です。現在の「アバンシィ」の良さを保った上に、高付加価値の機能をプラスしており、素材、機能の両面から患者さんの求めるQOLの向上に貢献したいと思っています。

さらに、今後は欧州、米州、亜州への販売も本格化していく計画になっており、「アバンシィ」の世界展開にも力を注いでまいります。

開発業務に携わっていると、医療機関の先生方にご意見をお伺いする機会がたびたびありますが、先生方からは、「患者さんは、視力が衰えることは生活する上で不便が生じることばかりではなく、それに加えて精神的な落ち込みも深刻な問題となる。メーカーの技術で手術後の患者さんの快適な生活をサポートしてほしい」というお話を伺うことがあります。当社は国産メーカーとして、より多くの患者さんの力になりたいと思っています。

（聞き手：広報グループ　石塚哲也）